

令和3年度愛知県立西春高等学校学校評価

本年度の重点目標	1 学力の向上を目指す学習指導の充実 2 夢を実現させる進路指導の充実 3 自主性や社会性を育む特別活動の充実		4 新型コロナウイルス感染症防止及び心身の健康に恵まれた生活基盤の確立 5 信頼され期待される学校づくりの推進	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価	評価結果と課題
生徒指導 (生徒指導部)	①心身の健康を第一に、夢を実現させる生徒指導—人間力の育成—	・学習(授業)と部活動の両立の下、人間力の育成を図る。また、教員は勿論だが、生活委員と連携をして将来を見据えた指導をする。	B	部活動では一次から意欲的に取組む姿勢が多く部活動でみられるが、学習面では低学年ほど目的意識が低く「やらされている」と感じる生徒が多いように見受けられた。生活委員会については十分に活動したと評価する。本校の生徒は、挨拶・清掃面などをしっかりできるので、継続してより人間力を向上させていきたい。
	②社会規範の確立といじめの防止	・身近な交通のマナーや規則の遵守から公共性や社会性の拡充を図る。生活委員会の活動の一環として、「生活だより」発行の他にも交通ルールやマナーの遵守について生徒自らが考える場を設ける。さらに、いじめを許さない健全な心の育成を図る。	B	交通ルールについては、「交通安全教室」では、生徒に考えさせる時間を設けたり、交通ルールの遵守については、日々の掲示物などを利用して生徒に伝えてきたが、自転車の右側通行や一時不停止、歩道でのスピードなど、最後まで地域の方から心配の声をいただいた。幸いにも大きな事故はなかった。 年2回のいじめ防止アンケートを実施することにより、生徒に意識させたり、早期発見を図った。重大案件は見当たらなかったが、一部の質問では悪い傾向が見られたので、今後も常日頃から生徒の言動の1つ1つに注視していきたい。
学習指導 (教務部)	①新教育課程の実施に向けたカリキュラムと評価法、「総合的な探究時間」の研究	・「信頼され期待される学校づくりの推進」という観点から、本校生徒に適した新カリキュラムならびに評価法や「総合的な探究時間」のあり方を追究する。	B	新年度からの新教育課程の実施に向けて、これまで教育課程委員会を中心に審議を重ね、これからの本校にふさわしいカリキュラムを編成することができた。これに続いて「総合的な探究の時間」についても数々のアイデアが寄せられ、コンテンツの再編成が活発に進んだことで、本校の現状に即した内容を盛り込むことができた。惜しむらくは評価法についても議論が進む予定であったが、昨今の情勢で数々の日程変更のために忙殺された上、待つべき指示が下りてこない事態も重なって、思うように進められなかったことである。
	②授業を核とした学習活動の充実	・学習サイクルの一環としての授業や調査のあり方を考えさせるとともに、学習習慣を核として「心身の健康に恵まれた生活基盤の確立」を目指させる。	A	今年度も「学習に関する調査」や「授業アンケート」を通じて、授業改善に取り組むことができた。とくに例年に比して大幅な日程の変更を強いられる中で、授業時間の確保、時間割の運用など、多岐にわたる面で教務部の総力が試される一年であった。
進路指導 (進路指導部)	①心身の健康に恵まれた生活基盤に立ち、学力向上を目指す学習指導・夢を実現する進路指導の充実	・生徒の進路意識の高揚を図るガイダンスの実施。 ・入試問題研究や模試結果の分析に基づく指導の充実。 ・基礎早期テストを通じた学習習慣の確立。	A	意識高揚を図るものとして、3年生対象の受験説明会、2年生対象の卒業生による進路ガイダンスや大学説明会、1年生対象の進路適性検査説明会を実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大によりいずれも対面での実施はできず、放送やオンラインを活用しての実施となった。実施の方法について、対面とオンラインとではそれぞれメリットデメリットがあると考えるので、学年団と相談しながら、手段を使い分けることも考える必要がある。
	②信頼され期待される学校として、多様化する大学入試への対応	・保護者、生徒に対する適切な情報発信。 ・最新の情報の正確な把握。	B	入試改革による変更に加えコロナ禍による影響もあり、情報が多岐にわたるため、伝え漏らしのないようにすると説明が膨大になり、かえって伝わっていなかったという点もあったと思うので、改善していきたい。
総務 (総務部)	①防災減災体制の整備と充実～東日本大震災から10年～	・防災対策の強化 北名古屋市との連携強化 防災委員会の充実 ◆令和3～4年度名古屋大学防災セミナー参加予定	A	防災委員会として、生徒が主体的に取り組むことができた。防災食品の設置について、適切な場所へ配置し直すことができた。コロナ禍における防災訓練の在り方について、生徒の提案を元に、工夫して行うことができた。北名古屋市との連携を密に行い、新しい取り組みを行えた。担当の負担が大きいため、業務の整理等が必要と感じた。
	②魅力ある学校像の発信～生徒募集を主とした広報体制の充実～	・学校説明会の充実 新しい広報体制の確立	B	コロナ禍における学校説明会の在り方について、さらに検討をすすめることが重要である。リスクの回避のため、今年度は中学生の来校時間を設定し、密を回避した。
生徒会活動 部活動 (特別活動部)	①西春祭の充実	・コロナ感染予防対策を十分行いながら、クラスやブロックの団結が図れる行事になるよう工夫する。	A	緊急事態宣言により急遽日程が変更された中でも、係の生徒を中心に成功させることができた。昨年行えなかったにもかかわらず、文化祭企画や体育祭応援合戦の内容がよく創意工夫されており、生徒の能力の高さを改めて感じるきっかけとなった。
	②広報活動の充実	・行事や部活動の結果をHPで発信するなど、広報活動を充実させる。	B	例年行う表彰式を今年度も行えなかったため、生徒会新聞を活用して部活動の活躍を報告した。部活動の結果については、今年度長期休業中にHPに掲載することを始めた。
保健厚生 (保健厚生部)	①環境美化活動の充実	・新型コロナウイルス感染症防止のため、衛生的な環境づくりに努める。 ・環境美化に対する生徒の意識向上を目指す。	A	毎日の清掃活動に必要なビニール手袋やシート等の使い捨てられる消耗品を整備したり、消毒作業を行いやすいように物品を用意したりする等、清掃や消毒に取り組むような環境づくりを行った。また、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、家庭から持ち込んだゴミの持ち帰りをこれまで以上に生徒に促し、教室から出るゴミの量をある程度減らすことができた。
	②教育相談の充実	・個々の生徒に対する支援活動を充実させる。 ・教育相談や特別支援に対する教員の理解を得る。	A	発達障害の診断がある生徒には、本人、保護者や担任と相談し、必要に応じて個別の支援計画を作成し、よりきめ細やかに対応できるようにした。こころの問題を抱えている生徒や不登校傾向の生徒は、担任と連絡をとったり、保護者とも話を聞く機会を持ったり、またスクールカウンセラーや医療機関につながるよう働きかけを行った。
図書情報教育 (図書情報部)	①図書館の利用・活用の推進	・読書活動の啓発を多方面から図る。 ・委員会活動の活性化を図る。	A	この2年間の年間貸出数は1400冊程度となっている。H.29には約860冊だったので、図書館の利用・活用は推進されている。自習などの利用も増えている。
	②ICTの利用・活用の推進	・一人一台タブレットやネットワークの効果的な活用を図る。	B	プロジェクターを全クラスに固定配置するなどICTの効果的な活用に向けて使用環境を整えることができた。ただタブレットの活用については個人差がある。
学年指導 (第3学年)	①学力の向上を目指す学習指導の充実	・習熟度に応じた学習指導 ・生徒情報の把握	A	生徒個々に合わせた学習指導を行うことができた。例年私立大学入試の時期に欠席などが増える傾向があるが、今年度はコロナの影響で試験前に感染予防のために欠席するケースが多く見られ、例年以上に欠席が多かった。最後までしっかり登校できるよう指導したいところであったが今年度に関しては難しかった。 今年度は早朝学習を実施し、授業の時間外でも教室が勉強の場であるという意識付けをすることができた。 学年団の先生のコミュニケーションを密にとることでの確に生徒情報を共有することができた。
	②夢を実現させる進路指導の充実	・進路情報の活用 ・最後まで粘らせる指導	A	検討会などの情報を学年団で共有することができ、面談などで十分活用することができた。 共通テストの平均点が例年に比べて大きく下がり混乱が予想されたが、先生方の適切な指導の甲斐あって出願の際に弱気になる生徒はほとんどいなかった。
(第2学年)	①心身の健康に恵まれた生活基盤の確立と、学力の向上を目指す学習指導の充実	・具体的な目標設定の立案 ・目標に即した学習計画の実行 ・授業(予習)を中心として家庭学習の習慣作り	A	学年集会や学年通信などを利用して、夢を実現させるための進路情報の提供をはじめ、学習計画の実行に向けての指導などを行うことができた。
	②学校諸活動の中核としての自覚の涵養	・学習活動はもちろん、生徒会・部活動など取り組むべき活動内容を確認させる。	B	学校諸活動の中核を担う学年としての自覚を促し、学校祭をはじめ部活動などの積極的な呼びかけで参加させることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、以前のような活動はできない場面も見受けられたが、おおむね良好に取り組むことができた。
(第1学年)	①心身の健康に恵まれた生活基盤の確立と学習習慣の確立	・面談や健康観察等から生徒の様子を掴み、適切に指導する。 ・予習や復習を中心とし、学習習慣を確立させる。	B	心身に不調をきたした生徒に対して、生徒・保護者との密な連絡・相談や関係分掌等との連携により、しっかり対応できたのではないかと。学習面においては、まだ徹底されていない部分がある。
	②他者への思いやりや支え合いの精神の涵養	・自分自身のことだけでなく、クラス・学年・学校全体、さらには地域全体のことを意識させる。	B	球技大会や西春祭等で、協力して準備をしたり本番にあたりたりなどする姿を見ることができたので、クラスの連帯を図ることができたのではないかとと思われる。
安全衛生委員会	新型コロナウイルス感染症防止	・感染症の感染を予防するため衛生的な環境づくりに心がける。	B	校内での感染拡大が発生することはなかったが、教員一人一人が衛生的な環境づくりに意識するような啓発活動は十分にできなかった。職員室等の整理整頓や休室の清掃等は改善の余地がある。
総合評価	昨年度に引き続き、様々な教育活動に制限があり、行事の実施時期や内容の変更を余儀なくされる状況であった。限られた条件の中で、各分掌・学年が工夫しながら柔軟に対応して教育活動を進めることができた。来年度も今年度の反省を活かすとともに、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、生徒の安心・安全を中心に対応することで、生徒・保護者、そして地域に信頼される学校づくりの推進に尽力していきたい。			